



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会  
宣教110~120周年  
標語

共に生きる  
いのちの天幕を  
広げよう

1963年9月20日 第3種郵便物認可 (毎月一日発行)

2020年9月1日 (火) 第798号

発行所 福音新聞社 (1部100円)  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3202-5398 info@kccj.jp  
発行人/ 趙永哲・編集人/ 金柄鎬

印刷所 青丘文化社

人権主日  
説教

# わたしのために命を失う者は、それを救う



<マルコ1:40-45, 7:24-30, 8:35>

許伯基 牧師 (京都南部教会)

「外国人が住みやすい社会は日本人も住みやすい」という標語が外き協によって採択されてから十数年の月日が経ちました。この言葉が真実であることが、残念ながら逆のかたちで明らかになってしまったのが、今のこの国です。この6年ほど、ヘイトスピーチが乱舞することが当たり前になり、「日本第一党」という恐ろしい名前の政党が東京都知事選で18万票を獲得することとなったこの社会で、今一体何が起きているのでしょうか？ 少数者をいじめ倒し、異質な者を隔離し、攻撃しようとするその差別志向は、今では同じ「日本国民」たちをターゲットに移しながら「無差別攻撃」をはじめています。コロナ禍のなかで、最前線で未知の感染症と闘っている医療関係者を自分たちのまわりから排除しようとしています。病氣と闘い、免疫を持って回復してくる感染者たちを「日本から出て行け」とのしります。行動パターンや判断基準の違う他者を匿名で徹底的にいじめ始める「自粛警察」「帰省警察」と言われる人たちが、まるでコロナ禍の自分たちのストレスでも晴らすように、全国のあちこちで活発に誹謗中傷を繰り返しています。何をしても、匿名の批判者たちの監視の目を気にしながら行動を決めることが当たり前になってしまったこの社会では、多数者である平均的な日本人たちも、もはや安心して暮らせません。それどころか「ターゲットにされる恐怖」に震えながら、縮こまって生きるしかないのです。

聖書の中のイエスは、このような状況の中で私たちにどう生きるよう呼びかけているのでしょうか？ ハンセン病者との出会い (マルコ1:40~45) の場面で、「み心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と確信を持ってひざまずいた病者に対して、イエスは手を差し伸べてその人に触れ、癒されました。ハンセン病者は今でこそすべての感染症の中で最も感染力の弱い部類の病と認知されていますが、当時の人々にとっては恐ろしい伝染病であり、何より律法によって触れることはおろか、近づくことも厳格に禁じられていました。イエスは時代の空気を読んだり、人々の目を気にしたりすることよりも、今自分に対して助けを求めている人に手を伸ばし、手を触れて助けることを選んだのです。

フェニキアの女性との出会い (マルコ7:24~30) では、汚れた霊に取り憑かれた娘を助けて欲しい一心の母親が、冷遇されることを知りつつもイエスに取りすがります。案の定、イエ

スの最初の反応は実に冷淡なものでした。「子どもたちのパンを取って小犬にやっではいけない」この「小犬」という言葉は日本語訳では無駄にかわいらしく聞こえますが、元々は「犬ころなんぞに」という侮蔑を明らかに含みます。ユダヤ人とそれ以外の民族の間にはっきりと一線を引き、見下す言葉です。イエスもまた、異邦人と交わることを教えて禁じられていた当時の、一人のユダヤ人として、このような差別意識から自由ではなかったのでしょうか。しかし「主よ、しかし、食卓の下の子犬も、子どものパンくずはいただきます」という、知恵に満ちた必死の反論に、思い直されて、彼女の娘を癒されたのでした。つまり、自分の心ない言葉によって痛み、傷つく人々の叫びに耳を傾けられ、自らの差別意識に向き合い、その行動を変えられたのです。

この二つの場面に共通するイエスの態度は何でしょうか？ その世相において支配的な考えにおもねったり、匿名の批判者たちを恐れて行動を控えたりすることなく、聞くべき声に耳を傾け、なすべき行動をなす態度です。また律法や常識にとりあえずしたがっておく無難さの中に安住するよりも、何が正しいかを信仰に照らし合わせて決断を下す態度です。そして敬虔であるという人々の評価にとどまることより、それを失ってでも、神と人に対する愛をまず実践することを選ぶ態度です。そしてそれらの態度は「自分を守ることであり、人を助けること、正しくあることを優先する」という精神に貫かれています。

フランシスコ教皇は過ぐる3月にこう語りました。「われわれの司祭らが外へ出て病める者に会いに行き…医療従事者やボランティアらの任務に付き添う勇気を持つよう、主と司祭らのために祈りましょう」「集まり、出歩くことが厭われるこの時代に、なんと無謀なことを？」と思われるかも知れませんが、我々キリスト者の生きる道考えたとき、彼が示した方向は正しいとしか思われぬのです。今この場にイエスがおられたら、どこに向かわれ、誰とともにおられるか？ 弟子たちに何を命じられるか？ということを考えるなら、答えは自ずと明らかです。「自分の命を救いたいと思うものはそれを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救う」というイエスの言葉がかつてないほど重みを持つこの時代に、私たちは自分の信仰を掛けて、悩みながらそれぞれの決断を下していくべきだと信じます。

**韓日対照聖書販売**




各ページ左に韓国語(改革改版)、右に日本語(新共同訳)が掲載されています。

- A5版変型・1772ページ
- 価格:3,000円(消費税・送料込み)

※お求めは總會事務所へ

**韓日対照讃頌歌販売**



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格:2,500円(消費税・送料込み)

※お求めは總會事務所へ

# 特集 新型コロナウイルスの感染危機と教会礼拝現状

## 関東地方会 ハンサラン教会

金根 湜 牧師

3月以後、主日礼拝は1、2、3部を一つに統合し、YouTubeを用いたオンライン礼拝も並行するようになり、主日午後の讚美礼拝と金曜祈禱会、食事会、聖書勉強会などの集会は暫定的に中断しています。

教会学校（幼、小、中高等部）はZOOMを用いたオンライン礼拝に、青年部はZOOMのオンライン礼拝とオフラインを並行しています。聖歌隊は各自が録画した映像を編集してつなぎ、映像による讚美をささげ、日本語の同時通訳はラインのグループトークを利用しています。礼拝堂での礼拝には教役者、長老、放送スタッフ、公共交通機関を利用しない近隣の信徒のみが参席しており、その他の信徒はYouTubeを用いたオンライン礼拝をささげています。家庭でオンライン礼拝をささげる信徒たちの集中力を考慮して、説教時間は短縮しています。

このほか行事や交わりに関しては、家族や個人で挨拶や安否を動画に撮ってもらい、主日ごとに共に交わる時間を分かち合う、「ハンサランを愛します」キャンペーンを行ったり、困難の中にある信徒に緊急災難支援金の給付や、全教会員を対象に「愛のお米の分かち合い」を行ったりしています。

## 関東地方会 東京希望キリスト教会

具 滋 佑 牧師

3月～5月までは礼拝の録画映像を各区域ごとに配信して、それぞれ家庭で礼拝を行い、教会には堂会員だけが集まって礼拝を行いました。以後6月からソーシャルディスタンスを考慮した指定席を設け、3部に分けて教会で礼拝を行いました。礼拝のためには週末に教会の内外の消毒をし、主日は礼拝と礼拝の間にも消毒をしました。また、信徒が教会に出入りする際には、消毒液の入ったトレイで靴底を消毒してもらい、入り口で検温、全身消毒も行いました。さらに予備のマスクを用意しマスク着用の徹底を図り、手洗いを励行しました。礼拝後は他の会議などもせず、食事の交わりもなく、すぐに帰宅していただきました。

コロナ禍における礼拝に関する問題は、礼拝に全信徒の参加が叶わず、80～85%の信徒だけが参加できるということと、安全と感染防止に最善を尽くしたとしても、なお感染のリスクを抱えている点です。今後の対策は、4月から始めている信徒たちへの毎日聖書黙想（テキストのPDF、韓国語/日本語録音ファイル）の送付を継続することと、オンラインツールと祝日や平日の夜間の時間などを利用した、少人数の集中した聖書の勉強会を計画しています。教会の財政は信徒の皆様のご一生懸命な献身と、できるだけ支出を抑えることで対処しています。何より、コロナ禍にあっても早天祈禱会と水曜祈禱会の出席者が普段以上の人数で守られていることに感謝しています。

## 関東地方会 盤石教会

曹 泳 石 牧師

3月の第1週の主日に諸職会を開き、第1回目として3月29日まで4週間、教会での主日礼拝とすべての集いを中止し、カカオトークのライブ配信と文書にて礼拝を捧げました。

4月5日からは、教会での礼拝を再開しつつライブ配信と共に、教会での食事と諸集会を取りやめ、3密の回避、消毒とマスク対策等を実施しました。その中で、教会員の1/4以上が離れて行きました。そして、8月になり、8月9日から23日ま

で3週間、2回目の教会の閉鎖をし、第1回目と同様の方法で主日礼拝だけを捧げました。教会員一同は「主日礼拝だけでも教会で捧げたい」と切に願ってはいますが、教会周辺を考慮すると、独自の判断で礼拝を強行することができないのが現状です。よって、教会の財政も非常にひっ迫しています。

これからも教会の家賃を払えるところまで、忍耐し努力していきたいです。

## 中部地方会 豊橋教会

鄭 守 煥 牧師

戦中の教会合同の他には、創立から今日まで捧げ続けてきた神への礼拝を途絶えるこのないように、教友が一つの思いとなって礼拝を守り続けています。礼拝をネット配信できない理由として、ネット環境の整っていない家庭があることがあげられますが、何よりも礼拝を守っていくことを3月の堂会で確認した上で教友の協力と理解を得ています。

これにより教友各自が感染予防対策をとる事、主日の健康状態や、健康に不安（持病、基礎疾患）のある教友には各自の判断において礼拝を欠席する判断を委ねています。また、礼拝中の各自のマスク着脱、讚美についても各々の判断で行っています。3～5月の食事会を中止した以外は通常の教会活動を継続しています。主の加護と導きに感謝いたします。

## 中部地方会 名古屋南教会

全 炳 玉 牧師

4月5日から9週間カカオトークの動画で礼拝し、6月7日から現在までコロナ対策としてアルコール消毒剤を提供し、信徒全員マスクを着用はもちろんすべてのドアを開いたままに距離を置いて礼拝をしています。

また、主日礼拝以外のすべての集まりやイベントを停止しています。幼い子供がいる二家族は、時々しか来ることができず、教会の財政状況は通常より20%減少しました。

色々大変な時期ではありますが、コロナ終息のために心から祈り、互いに慰め励まし合いながら元気をもらっています。

## 関西地方会 布施教会

全 聖 三 牧師

月末に緊急事態宣言が解かれたので主日午前礼拝を再開しました。その間も早天祈禱会と水曜祈禱会は継続しました。

7月になり大阪の感染者が多くなり、堂会で決議し、週報に「感染者が急増しています。また猛暑が続いています。健康にはくれぐれも留意してください。教会としては、主日午前礼拝をささげますが、各自は無理をしないよう心がけてください」と掲載しました。これにより数人の信徒からは8月末まで夏休みします、と言われました。

4月から毎主日、ラインで結ばれている信徒に週報とショートメッセージを送り続けています。ラインが繋がらない方には当日の週報を家に届けています。最近の礼拝出席の平均は約半数です。

主日礼拝に来る方は、手を消毒して距離を保っていただき、説教者もマスクを着用し礼拝時間も短縮しています。聖歌隊の奉仕もなく、昼食も中止し、午後礼拝も行わず、実に寂しい状況です。

## 関西地方会 大阪第一教会

宋南鉉 牧師

礼拝は、参席者全員がマスクを着用し、ソーシャルディスタンスを保ちながら、出入口を開けたまま、主日午前の礼拝だけささげています。聖歌隊の讚美は、YouTubeの讚美ミュージックビデオで代わりにしています。

わずかの人数が参席する早天礼拝、水曜礼拝、教会学校の礼拝は、以前のおりささげています。問題点としては、緊急事態が宣言されたときから、高齢者と基礎疾患のある方のための特別な設備とサポートが不足していること。

今後の対策は、信徒たちをAグループとBグループに分けて、Aグループはスマートフォンを活用してどこでもオンライン礼拝できるようにして、Bグループは、礼拝の実況を録音したCDを郵便で発送して、自宅で礼拝をささげようによること。財政的な問題は、前年同月比の財政が減少しています。

## 関西地方会 今福教会

朴愛仙 牧師

3月下旬から昼食と主日午後礼拝、水曜祈禱会を中止していますが、主日午前礼拝は休まず守っています。

来られない信徒にはラインやカカオトークで週報とその日の祈りを送っています。高齢者が多い教会であるため、オンライン映像の礼拝などを用いることは少し無理があります。

教会の入口と至る所に消毒のアルコール液を置き、信徒と牧師の講壇でのマスク着用も徹底しています。

悩みはコロナウイルス感染予防対策として、老人ホームの施設や病気の信徒にお見舞いが出来ないもどかしさと、今まで教会を支え関わってきた高齢の信徒らが礼拝に参加できないことなどで、経済的にも苦しい状況にあります。

## 関西地方会 大阪築港教会

朴時永 牧師

4月以後、感染予防の一環として玄関に消毒液を設置し、マスクを着用するよう信徒達に義務づけました。また、座席の間隔も空け、エアコンを使用する夏期でも窓を開けて通常通り教会で礼拝を献げています。

また、毎週行っていた愛餐会を一旦休会していましたが、7月からは月1回のペースで再開しています。その中で、愛餐会がない週でも信徒たちから交わりを持ちたいという要望があったため、自由参加でtea time (30分程度)を持つようにしました。

聖書勉強会や韓国語教室は継続休会中です。また、礼拝に参加できない信徒たちにはホームページにて説教要約を掲載しています。

## 関西地方会 豊中第一復興教会

朴栄子 牧師

わたしたちの教会は、もともと出席が10名以下でしたので、座席の間隔を空けるなど対策を講じながら休むことなく礼拝を続けてきました。

コロナを機に、毎週礼拝のライブ配信 (zoom礼拝) を開始しました。数週間は教会員でテスト使用した後、教会外の方を招待することにし、毎週250名にリンクを送っています。その中から平均4、5名の参加者があり、ノンクリスチ안의知人が加

わることもあります。ほとんどのの方が最初から最後まで参加されるので、かえって礼拝出席者が増えました。

教会の礼拝は開かれておりどなたでも歓迎するものですが、普段は知らない人が来ることがほぼなく、その状況に慣れていたことを突き付けられました。

誰が聞いてもわかりやすいメッセージ、クリスチャンだけの内向きなものではない、宣教を意識した礼拝の改革に取り組んでいます。

## 西部地方会 新居浜グレース教会

安辰男 牧師

4月26日から教会での礼拝をやめて「家庭礼拝」になりました。プログラムを印刷して皆さんに配りました。そして、その後も二週間家庭礼拝をしていただくために郵便でプログラムを送りました。

幸いにも家庭礼拝は三週間で終わり、その後は「三密」を避けるために全員マスクをつけて礼拝しています。エアコンをかけて窓を全開にしています。愛餐会も中止、握手もありません。

礼拝が終わったら家族たちが帰るのを見守るだけになってしまいました。

## 西南地方会 下関教会

金成彦 牧師

3月から水曜礼拝と木曜聖書勉強会を中止しており、水曜礼拝は家庭礼拝書を用いて各自家庭で捧げるようにしています。そして、主日礼拝後の愛餐会をしばらくの間お休みにしており、また聖餐式など接触が起きそうなことは控え、礼拝中のマスク着用、席は距離を置きつつ空気の換気と消毒を続けていますが、いつ何が起きるかわからない状況に置かれていると認識しており、問題が無いようにより注意しています。

しばらくは主日礼拝だけを行う事にはしていますが、地域の教会との交流が途絶え、日韓交流会や合同礼拝が今年全て中止になってしまったことが残念です。

今後下関教会は、これからの事態が長期化する恐れがある今の状況をどう打開するか、どう付き合っていくか、地域社会でできることはあるのか、常に悩みつつ執り成し祈って行こうと思います。

## 西南地方会 対馬恵み伝道所

朴栄喆 牧師

3月初めからすべての集会が中止となり、毎週土曜日の午後、信者たちの家庭を訪問して、週報、説教文、簡単な食べ物などを手渡し、家庭集会を激励し、様子をうかがってきました。

この間、対馬には感染者が出ていなかったもので、5月末から集会が再開できました。

昨年の夏から始まった韓日両国の対立の直撃を受けた対馬は、深刻な経済難の中で、観光業を営む信者の一部は、仕事を求めて現地に発ち、一部は韓国に帰国してから帰ることができずにいます。

ところが驚くべきことに、信者たちの礼拝出席率が高くなり、また、新しく登録した信者たちができて礼拝室が狭くなり、7月初めに2週間かけて信者たちだけの力で礼拝室の壁を取り壊し、礼拝空間拡張工事を終えて大きな感激を味わいました。

しかし、7月末、対馬でも感染者が発生し、8月初めから主日礼拝以外はすべて中止となっています。

武庫川教会

# 朱京中・趙舜元名誉長老、清本讓名誉執事の推戴式及び金徳淑勸士就任式挙行



## 讃頌歌委員会より「子どもさんびか」が発行されました。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒 集録  
(いずれも韓国語・日本語)  
一冊1,000円  
お問い合わせは総会事務局へ  
電話 03-3202-5398



豊かな味、豊かな心。



代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)  
四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

### 特別手記

## 上信越・東北地域 教会訪問記

張慶泰 牧師 (船橋教会/総会副書記)

私たちの在日大韓基督教会が1980年代に「教会のない県に教会を」と、運動を起こして設立された教会がある。今回それらの教会のうち、長野県の千曲ビジョン伝道所(2012年設立、金炯振牧師)、長野教会(1991年設立、崔和植牧師)、新潟教会(1990年設立、李在益牧師)、山形ウリ教会(1994年設立、李明信牧師)、宮城県の仙台教会(1984年設立、徐東一牧師)、岩手県の北上ベテル伝道所(2008年設立、洪雄杓牧師)、青森県の三沢教会(1986年設立、趙原徹牧師)、福島県の郡山伝道所(2009年設立、朴正根牧師)を総幹事の金柄鎬牧師が訪問するにあたり、総会の副書記の職責である自分も同行することになった。



内装工事中の新しい新潟教会

訪問の目的は、コロナ・ウイルス感染の影響で半年以上もオンライン上でしか会うことのできなかった遠距離地域の教会を訪ね、励ましと祈りを通して総会ならびに地方会と堅固に結ばれている支教会としての存在を認識し共有することであった。

これらの支教会は、1980年代以降にさまざまな事情により韓国から日本に渡ってきて定着した新しい世代を中心に設立された教会である。こうした地域では、慣れない日本社会に適應する努力、祖国との結びつき、韓国教会の影響で熱心さと熱い祈りへの渴望、簡単ではない日本での生活などによって起こるいろいろな問題を相談でき、心のケアも知恵をもって対応できる宣教的な使命と情熱を持った牧会者が要求されていた。

●千曲ビジョン伝道所は、韓国から新しく宣教師として金炯振牧師が今年の2月に赴任されたが、伝道所はそれまでに集められた1,000万円の建築献金をもって教会堂の建築を準備していた。

●長野教会は、崔和植牧師の努力した牧会の力量によって成熟した教会に成長させ中部地方会でも中心的な役割を果たしている。

●新潟教会は、設立30周年を迎えて教会堂を購入し、現在その内装工事が行われている。9月の第一主日に入堂礼拝を計画している。しかし、この内装工事の不足費用の200万円のために共に祈ってほしいとの要請があった。

●山形ウリ教会は、李明信牧師が赴任され、すでに13年が経過した。日本の農村地域に根を下ろした教会として日本の教会との連帯や、東北地域の教役者たちの先輩として大きな役割を果たしていた。

●仙台教会は、東北地域の要とも言える仙台に位置し、東北大学や東北学院大学(キリスト教系の大学)、韓国総領事館が周辺にあり、韓国だけではなく国際的な文化が息づく地域であると同時に、3.11

東日本大震災の現場として教会は注目されており、重要な役割を担っている。

徐東一牧師はかの地で11年目の奉仕をしている。

●北上ベテル伝道所は、農業と工業が中心の岩手県の中央に位置する北上市に設立された教会で、洪雄杓牧師が赴任され、少しずつ安定してきている。

●三沢教会は、5年に渡って教役者も信徒もおらず門を閉めていた教会に、昨年趙原徹牧師が赴任され、門を大きく開いて礼拝が再開された教会である。使命感とすばらしい人柄をもった趙牧師に大きな期待が寄せられている。

●郡山伝道所は、被災地地域の福島県の農村部に位置し、韓国人はもちろん日本人宣教のために朴正根牧師が大きな役割を担っている。

1,900kmにおよぶ自動車の運転は楽なものではなかったが、主の導きにより無事に訪問し終えたことを感謝しつつ、今日のように隔離されたコロナ禍の時代にあって、オンラインを通してでも彼らへの関心と援助が必要であると感じた。

いくつかの教会から贈られた海苔、お米、ラーメンなどの小さな奉仕が大きな感謝と感動であったとのことである。